

こともある。難治性の結節性痒疹に対してはステロイド局注や凍結療法も行われる。

3. 妊娠性痒疹

prurigo of pregnancy, prurigo gestationis

妊娠初期(3～4か月)に四肢伸側および体幹に生じる痒疹で、出産後に軽快する。多くは2回目以降の妊娠で生じ、妊娠ごとに発症する傾向にある。多形妊娠疹(次項)との異同が問題となっているが、妊娠性痒疹は妊娠初期に、多形妊娠疹は妊娠後期に生じる。

4. 多形妊娠疹

polymorphic eruption of pregnancy ; PEP

同義語 : pruritic urticarial papules and plaques of pregnancy ; PUPPP

初回妊娠でとくに双胎の場合にみられやすいとされる。妊娠後期に強い搔痒を伴う小丘疹・紅斑が妊娠線部位に出現し、次第に体幹・四肢に拡大するが臍は侵されない(図 8.10)。一般的に出産後数日以内に消退する。妊娠性痒疹(前項)の遅発型と解されることもある。

5. 色素性痒疹(長島)

prurigo pigmentosa

同義語 : Nagashima's disease

搔痒の強い蕁麻疹様紅斑として出現し、痒疹様の紅色丘疹を反復して治癒後に粗大な網目状の色素沈着を残す(図 8.11)。思春期女子の背部や項部、上胸部に好発する原因不明の疾患であるが、急激なダイエットが契機になる場合がある。ミノサイクリン、DDS が有効。



図 8.10 多形妊娠疹 (polymorphic eruption of pregnancy)

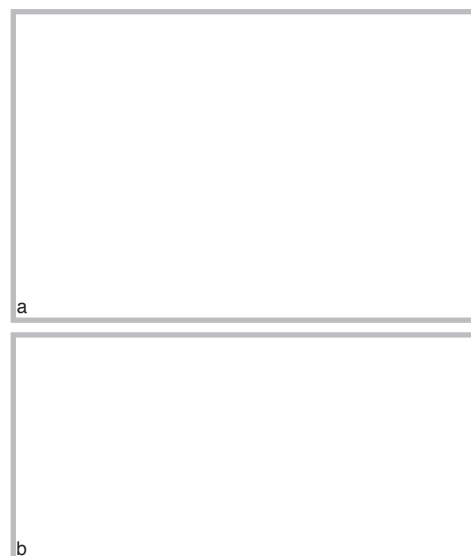


図 8.11 色素性痒疹 (prurigo pigmentosa)
a : 20 歳代女性、項部。新鮮な紅色皮疹と陳旧性の網目状の色素沈着の混在が著明。b : 網目状の色素沈着部の中央部に紅色の新鮮な皮疹の再燃(矢印)が認められる。

皮膚搔痒症 そうよう pruritus cutaneus

Essence

- 明らかな皮疹がないにもかかわらず、強い搔痒を呈する。
- ドライスキンを伴うことが多い。
- 掻破によって二次的に皮疹や苔癬化、色素沈着などを生じる。